AOI-UCS-Q1-RC

# ウルトラコンパクトストロボRC

Fisheye

# 目次

＜安全にお使いいただくために＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
＜仕様＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
＜各部名称＞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
<使用方法>
・バッテリー装填手順　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
・操作方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
【スタンバイモード】
【オートパワーオフ】
【LEDライト調光】
【RCモード】
【i-mモード】
【マニュアルモード】
【ストロボテスト】
【モデリング発光】
【高温時保護機能】
【光ファイバーケーブルの接続】
【インジケーターの表示】
【ディフューザーの使い方】
<メンテナンス>　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
・Oリングのメンテナンス
・浸水テスト
・使用後のメンテナンス
・もしも浸水した場合
・オーバーホール

＊取扱説明書について
●本書の内容は、予告なく変更することがあります。
●本書の内容について、誤記、記載漏れ、印刷ミス、不明な点などがありましたら、弊社もしくはお近くの販売店までご連絡をお願いいたします。
●本書の一部もしくは全部をいかなる方法でも、個人利用を除いて、無断で複写・複製することはできません。

# 安全にお使いいただくために

●本製品は水中専用ストロボです。セッティング確認時を除き陸上での発光は控えてください。
●必ずこの説明書をお読みの上、正しくお使いください。
●誤った使い方をされますと、故障や水没の原因となり、修理不能になる場合があります。
●ご使用の際にはこの説明書に従い必ず点検、テストを行ってください。
●分解、改造、修理に伴う事故などに関し、弊社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。また、使用時の人身、物損事故に関しての補償はいたしかねます。

## 安全上の注意

ここに表示した注意事項は、状況によっては重大な結果に結びつくおそれがあります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

**危険**　取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容。
**警告**　取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。
**注意**　取り扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

### 危険

●バッテリー接点部同士を、金属板や針金などで接続しないでください。感電や発火の原因になります。
●本製品を改造・分解しないでください。発熱や発火の原因になります。

### 警告

●本製品を乳児、幼児、小さなお子様など、本製品の取り扱い注意事項を理解できない人の手の届く場所に保管しないでください。
●本体にバッテリーを入れたまま保管しないでください。ガスや液の発生によって、人体に影響を及ぼす危険があります。
●本製品を収納・運搬する際は、必ずバッテリーを外してください。意図せず電源が入り、火災の原因になることがあります。
●本製品をご自分の目や他の人の目に向けて照射しないでください。失明や視力障害など重大な障害を引き起こすおそれがあります。
●本製品の発光部を床やテーブルに伏せた状態で点灯させないでください。また、燃えやすいものの近くで点灯させないでください。火災の原因となるおそれがあります。
●必ず指定のバッテリーとチャージャーをご使用ください。他の製品を使用すると本製品を破損させたり、ガスが発生して危険な状態になる場合があります。
●濡れた手でバッテリーやチャージャーを触ると感電する危険性があります。バッテリーは十分に乾いた手で取り扱ってください。
●ストロボやライトの発光後、発光部には触らないでください。火傷の原因になります。

**注意**

●本製品は60mの水深まで耐えられるように設計されています。それ以上深い場所で使用したり、それより浅い深度においても衝撃や圧迫を加えると破損したり、浸水するおそれがあります。

●浸水や故障などの事故を防ぐためにこの説明書をよくお読みになり、ご使用前後に必ず点検とメンテナンスを実施してください。

●気温が異常に高くなる、あるいは低くなる場所、極端に大きな温度変化がある場所などに本製品を置いたり、保管したりしないでください。部品が劣化し、破損したり防水機能を損なうおそれがあります。

●砂や塵、ほこりなどが多い場所で本体を開閉すると、防水部分に異物が付着し、防水性能が損なわれることがあります。

●飛行機で移動する場合は、バッテリーキャップをゆるめて運搬することをおすすめします。気圧の影響で取り外しができなくなったり、またその状態で無理に取り外そうとすることで製品を破損するおそれがあります。

●本製品から異音や異臭がする場合や煙が出る場合は、バッテリーを取り外し、お買い求めになった販売店に修理をご依頼ください。

●アルコールやベンジン、シンナーなどの有機系溶剤は、変形などの原因になりますので絶対に使用しないでください。

●万一、浸水が発生した場合、速やかに電源を切り、バッテリーを取り外してください。濡れているバッテリーに直接触れると感電の危険性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。

●万一、浸水が発生した場合、すぐに使用を中止してください。また、浸水している場合、本製品内部の圧力が高くなっていることがあります。本体を開ける際、水が噴き出したり、本体が跳ねることがありますので、十分ご注意ください。

# 仕様

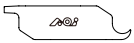
| 製品名 | AOI-UCS-Q1-RC-BLK/WHT | |
|---|---|---|
| 材質 | ポリカーボネート、グラスファイバー | |
| ストロボ | ガイドナンバー | 22（ISO 100・m 陸上値、Full発光時） |
| | 色温度 | 5000K |
| | 照射角度 | 12mmレンズ（換算24mmレンズ）の画角をカバー（陸上値） |
| | リサイクルタイム | 0.85秒（Full発光時） |
| | 発光回数 | 1500回（Full発光時） |
| | 接続方法 | 光ファイバーケーブル |
| | 予備発光 | 自動 |
| | フラッシュモード | RC モード：OMDS/RC FLASH（グループA、チャンネル 1 ）<br>TTL オート、マニュアル、FP TTLオート、FP マニュアル<br>i-m モード：TTL オート、マニュアル、スヌート（グループA、チャンネル 1 ）<br>マニュアルモード：1/64、1/24、1/8、1/4、1/2、1/1 |
| | モデリング発光 | 2秒の点滅 |
| | 充電時間 | 3時間 |
| LEDライト | 最大光量 | 700ルーメン |
| | 光量調節 | 100%、50%、25%、OFF |
| | 色温度 | 5600K |
| | 照射角 | 45° |
| | 連続点灯時間 | 130分（最大光量時） |
| バッテリー | 指定リチウムイオンバッテリー×2 | |
| 耐圧水深 | 60m | |
| サイズ | W77×H131×D125mm | |
| 重量 | 550g（陸上）、90g（水中） | |
| 付属品 | ディフューザー、バッテリーケース、シリコングリス、スペアOリング、<br>Oリングリムーバー、クリーニングクロス、AOIロゴステッカー、エクステンションダイヤル | |

ディフューザー

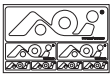
バッテリーケース

シリコングリス

スペアOリング

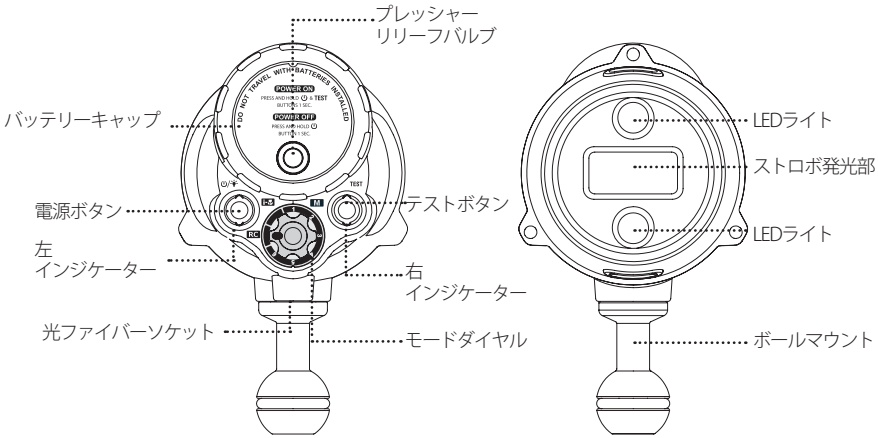

Oリングリムーバー

クリーニングクロス


AOIロゴステッカー

エクステンションダイヤル

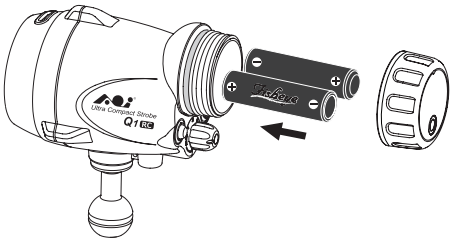
# 各部名称




**注意** ボールマウントは、専用のネジで固定されておりますので取り外しはしないでください。本製品のボールマウントはストロボ本体の熱を外部に逃すヒートシンク機能を兼ねた部品です。改造・分解は絶対にしないでください。取り外した場合、発熱により製品故障の原因となります。

# 使用方法

## バッテリー装填手順



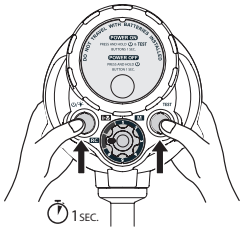

**指定バッテリーを使用ください。**
類似品の使用は接触不良・故障の原因になります。

**指定バッテリー**
**FIX Li-ionバッテリーFEBT186531S（#30381）**

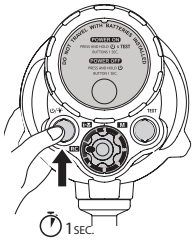
指定バッテリーのチャージには、FIX CH-9デュアルバッテリーチャージャー（#30577）とFIX USBケーブルACアダプターII（#30578）をご使用ください。

## 操作方法

電源ボタンとテストボタンを同時に1秒以上押すと、電源がONになります。




電源ボタンを1秒以上押すと、電源がOFFになります。




**【スタンバイモード】**
15分以上操作しないと自動的にスタンバイモードになり、左インジケーターが点滅します。

**【オートパワーオフ】**
2時間以上操作しないと自動的に電源がOFFになります。

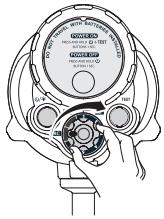
**【LEDライト調光】**
電源をONにして、電源ボタンを押すとLEDライトに切り替わります。
[OFF]→[25%]→[50%]→[100%]→[OFF]の繰り返し

**RC【RC モード】**
OM SYSTEM（旧OLYMPUS）のカメラ本体のフラッシュモードをRCにする必要があります。
モードダイヤルをRC モードにセットすると、左インジケーターが青色に点灯します。

**i-m【i-m モード】**
OM SYSTEM（旧OLYMPUS）のカメラ本体のフラッシュモードをRCにする必要があります。モードダイヤルをi-m モードにセットすると、左インジケーターが青色に点灯します。
i-m モードは、マクロ撮影用のRCモードです。超近接撮影時に選択いただくことを推奨します。マクロ撮影に最適な光量制御により露出オーバーを防ぐことで、適正露出の写真を撮ることができます。

**M 【マニュアルモード】**

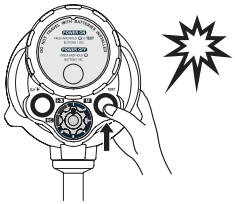
光量は、手動で６段階に設定できます。
モードダイヤルをマニュアルモードに設定すると、左インジケーターが点灯します。



| マニュアルモード | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 光量 | 1/64 | 1/24 | 1/8 | 1/4 | 1/2 | Full |

**【ストロボテスト】**

マニュアルモードで、テストボタンを押すとストロボが発光します。左インジケーターが白点滅はチャージ中、白点灯でチャージ完了です。ストロボテストはマニュアルモードだけの機能です。



**【モデリング発光】**

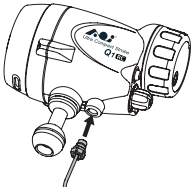
テストボタンを1秒間押し続けると、ストロボが2秒間ストロボパルスを発します（連続の高速発光）。撮影前に照射角を確認したり、周囲の環境が明るくターゲッティングライトの光量が不足する場合に利用できます。ピント合わせが難しいスヌート撮影（AOI-SNT-01スヌートを使用）の場合にも役立ちます。

**【高温時保護機能】**

本製品には過熱保護回路が装備されています。 ストロボが過熱すると、内部の電子機器の温度が急激に上昇し、ストロボの過熱を防ぐためにストロボの再充電/リサイクル時間が自動的に遅くなります。 ストロボを継続して使用すると、過熱保護回路が作動する場合があります。右インジケーターが紫色にゆっくりと点滅し、ストロボが一時的に停止します。 ストロボが冷えると、インジケーターが通常に戻り、すべての機能が再開されます。

**【光ファイバーケーブルの接続】**

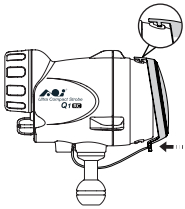
光ファイバケーブルの一方の端を本製品の光ファイバーソケットに挿入し、もう一方の端をカメラハウジングの光ファイバーソケットに挿入します。

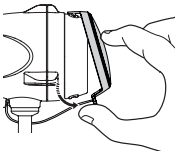


## 【インジケーターの表示】

| 左インジケーター | 右インジケーター | モードダイヤル | ステータス表示 |
|---|---|---|---|
| ストロボモード | | | |
| 青：ゆっくり点滅 | バッテリー残量の色 | RC / i-TTL | チャージスタート |
| 青：早い点滅 | | RC / i-TTL | チャージ中 |
| 青：点灯 | | RC / i-TTL | チャージ完了 |
| 白：ゆっくり点滅 | | M | チャージスタート |
| 白：早い点滅 | | M | チャージ中 |
| 白：点灯 | | M | チャージ完了 |
| バッテリー残量 | | | |
| ストロボモードの色 | 緑：点灯 | RC / i-TTL / M | 50% ～ 100% |
| | 黄色：点灯 | RC / i-TTL / M | 25% ～ 49% |
| | 赤：点灯 | RC / i-TTL / M | 10% ～ 24% |
| | 赤：早い点滅 | RC / i-TTL / M | 10% 以下 |
| オートラーニング機能（プリ発光キャンセル機能） | | | |
| 白（左）と緑（右）が交互に点滅 | | M | メモリー中 |
| 白（左）と青（右）が同時に点滅 | | M | メモリー成功 |
| 白（左）と赤（右）が同時に点滅 | | M | メモリー失敗 |
| ストロボ障害 | | | |
| ストロボモードの色と紫が同時にゆっくり点滅 | | RC / i-TTL / M | ストロボ高温時 |
| 電力制御範囲外 | | | |
| ストロボモードの色 | 紫が早い点滅 | i-TTL | 撮影距離が近すぎる / 遠すぎる |

## 【ディフューザーの使い方】



# メンテナンス

## O リングのメンテナンス

本製品は専用のOリングによって防水機能を維持しています。バッテリーキャップの2本のOリングは、ユーザーによるメンテナンスが必要です。 長期間ご使用にならない場合は、Oリングに付属のシリコングリスを薄く塗って保管してください。また、Oリングは1年ごとの交換をおすすめします。

**注意**

- Oリングを外す際は、絶対に金属製の鋭利なもの(はさみやナイフ)を使わず、付属の「Oリングリムーバー」をご使用ください。
- Oリングの摩擦や劣化を防ぐため、Oリングの表面に付属のシリコングリスを薄く塗布(グリスアップ)します。その際、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、シリコングリスが多すぎると、かえってゴミやホコリが付きやすくなりますのでご注意ください。
- Oリング面に小さな傷やひび割れなどがある場合は、絶対に使用せず、すぐにスペアのOリングに交換してください。
- Oリング溝、Oリング接触面にも、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、傷やひびなどがないかもしっかり確認してください。
- Oリング溝にOリングを装着する際、Oリングがねじれたり、はみだしたりしないようにご注意ください。
- OリングやOリング溝のチェック、グリスアップなどは、バッテリーキャップの開閉ごとに実施してください。

## 浸水テスト

本製品の使用前に、浸水テストの実施をおすすめします。 水を張った洗い桶や洗面器などに、本製品を水平を保ったまま浸してください。 3秒で一度、30秒で一度、3分間で一度、水から取り出して、異常がないか確認してください。

## 使用後のメンテナンス

1.使用後は、本体をおよそ10〜20分程度、真水に浸けておいてください。また真水の中で、各ボタンやダイヤルを回し、ボタンの周囲についた塩分を洗い流してください。洗うときはバッテリーキャップを動かさないでください。

**注意**　海水で使用後、そのまま放置すると細かいすき間などに塩分が残り、乾燥するとその塩分が結晶となり水に溶けなくなってしまいます。結晶化した塩分は時にOリングを押し上げ、浸水の原因になりますので、必ず真水に浸けて塩分を洗い流してください。

2.真水から上げたら、弱い流水で洗ってください。強い水流を一定方向から当てると浸水の原因となりますので、絶対におやめください。
3.水洗い後は、乾いた柔らかい布などで水気をよく拭き取ってください。直射日光による乾燥、ドライヤーやストーブによる乾燥は、故障や変形、破損の原因となりますので絶対におやめください。
4.ご使用後は、Oリングにシリコングリスを薄く塗ってから保管してください。Oリングは1年毎に交換されることをおすすめします。
5.長期間ご使用にならない場合は、高温多湿、直射日光、極端に気温が下がる場所を避けて保管してください。
6.保管時はバッテリーは取り外してください。長期間ご使用にならないときは、内部電子部品の劣化を防ぐために、1か月に一度を目安にバッテリーを入れてテスト発光をおこなってください。
7.アルコールやシンナー、ベンジンなどの有機系溶剤や中性洗剤は、変形や破損の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

## もしも浸水した場合

本製品は、万一、本体内部に浸水してもダメージが最小限で抑えられる構造になっていますが、浸水を確認した場合や浸水が疑われる場合は、速やかに本製品の使用を中止し、弊社カスタマーサービス（Tel.03-5988-0191）までご連絡ください。

## オーバーホール

本製品の使用回数に関わらず、1年から2年に一度の定期的なオーバーホールをおすすめします。製品内部にユーザー自身では交換できない防水パーツを使用しています。これらを定期的に交換・メンテナンスすることで浸水事故を防止し、製品寿命を延ばすことになります。一定期間が経過した製品は、ぜひ弊社カスタマーサービスまでオーバーホールをご依頼ください。



202403